

<ミニシンポジウム>

次世代型魚類養殖給餌システム開発の現状と展望

日時・場所 平成20年3月27日(木) 9:00~11:50 第11会場(8号館)  
企画責任者 神原 淳(三重大院生資)・田畑満生(帝京科大生命環境)・秋山敏男(水研セ瀬戸内水研)・山本剛史(水研セ養殖研)・浮 永久(マリノフォーラム21)

- 9:00~9:05 開会の挨拶 . . . . . 神原 淳(三重大院生資)  
座長 神原 淳(三重大院生資)
- 9:05~9:30 1. 超音波センサーを用いた飽食魚群の判定による給餌システムの取り組み  
. . . . . 中田 誠(アクアリサーチ・元海洋大)
- 9:30~9:55 2. 残餌制御型ブリ自動給餌システム開発の試み  
. . . . . 仲 忠臣(日水大分海洋セ)
- 9:55~10:20 3. マダイ養殖における自発摂餌実用化の取り組み  
. . . . . 古川 清(東大院農)  
座長 山本剛史(水研セ養殖研)
- 10:20~10:45 4. 淡水魚養殖における自発摂餌型給餌システムの実用化  
. . . . . 小西浩司(群馬水試)
- 10:45~11:10 5. 魚類養殖給餌システムの普及に対する取り組みと今後の展望  
. . . . . 藤原卓也(福伸電機(株))
- 11:10~11:40 6. 総合討論  
神原 淳(三重大院生資)  
田畑満生(帝京科大生命環境)  
秋山敏男(水研セ瀬戸内水研)  
山本剛史(水研セ養殖研)  
浮 永久(マリノフォーラム21)
- 11:40~11:50 閉会の挨拶 . . . . . 田畑満生(帝京科大生命環境)

企画の趣旨

魚類養殖において生産量の増大を目的とした飼餌料の過剰投与は、これまで養殖漁場環境の悪化を引き起こしてきた。給餌量の削減は汚濁負荷の少ない飼餌料の使用促進と共に、養殖漁場の環境保全にとって重要な課題となっており、環境負荷を最小限に抑えつつ安全・安心な魚類を効率的に生産するためには「適正給餌」が必須条件である。これを実現する給餌技術として、これまで画像解析型、残餌制御型、自発摂餌型

の給餌システムが研究開発されてきた。そこで、これら次世代型給餌システム開発の状況、実用規模試験の現状、有効性、問題点などを紹介・整理するとともに、我が国の水産養殖業界への普及の方策についても議論するために本シンポジウムを企画した。